

70以上の事業所の協力を教師が下支える

実施概要

足を運び開拓した受け入れ先。
事前に職業人の講演会やマナー学習を開催

熊本県立牛深高校の「職場体験学習」は、今年度で11年目となる。導入の目的は、関東や関西に就職した生徒の多くが1年以内に離職するという当時の状況の打開。例年、卒業生の約4割が就職の道に進む。「どうすれば辞めずに頑張れるのか、生徒に何が必要か。先進校に学び、手探りで始めた実践でした（進路指導主事・渡邊史先生）

2年次の全生徒が対象で、現在は総合的な学習の時間での実践だが、始まりは1995～97年度の夏休みの「1日職場体験」。リアルな体験が生徒の力になることを実感し、98年度から本格的な取り組みをスタートさせた。「職業講演会やマナー指導」「生徒が直接電話をし、挨拶に伺う」「職場体験」「報告書と礼状を作成」「事後指導」が基本の流れ（下図）。職員が足を運んで開拓した受け入れ事業所は、今では70を超えている。

「職場体験学習」2005年度の実施スケジュール

	総合的な学習の時間	連動した教師の動き
4月	・ガイダンス ・希望の事業所のアンケート	・協力事業所を訪問、受け入れを依頼 ・受け入れに関するアンケートを実施
5月	・系統別学習	・生徒の希望に応じ、新たな受け入れ先を開拓
6月	・体験業種別オリエンテーション ・事業所提出用自己紹介文作成 ・職業講演会	・体験事業所決定後、改めてお願いに向く
7月	・マナー指導 ・各事業所に生徒がアポイントをとり、生徒だけで挨拶に伺う（授業外の活動）	
8月	・職場体験（3日間）	・各事業所を回り、生徒の様子を巡視
9月	・報告書作成 ・お礼状の作成（国語の指導）	・各事業所に事後のアンケートを実施
10月～3月	・「進路調べ学習」に移行	・アンケート結果を集計、事後指導を行う

POINT

生徒が自ら事業所にアポイント。
マニュアルはあえて作成しない

事前指導の中心となるのはマナー指導。挨拶班、服装班など観点別にグループに分かれて、社会人マナーとして何が必要かを生徒が考え、発表した後、実際の現場で従業員指導を行ってきた方などを講師に招き、マナー講習を実施する。自分たちの考えと実際の指導の厳しさのギャップに生徒は驚くが、職場体験を通してそれがごく当たり前のことなのだとして認識していくという。

生徒は希望の事業所に、自分で電話をかけてお願いをし、履歴書を持参して挨拶に向く。教師は立ち会わない。マニュアルなども作らない。「必要に迫られたり、失敗しながら自ら学ぶことが大事」と考えているからだ。その代わり、2年次学年団は年度始めに前年度までの受け入れ事業所を訪問し、改めて趣旨を説明して協力を要請。生徒の希望確定後にもう一度事業所を訪れるなど、陰で体験を支える。「地域にはまだ、昔ながらの人間なつきあいと教育力が残っている。それが強み（第2学年主任・平川修先生）

体験当日、教師は各事業所を巡視し、生徒の様子を進路指導資料として記録に残す。生徒は「職場体験のしおり」に毎日自己評価を記入、進級論文となる職場体験報告書の作成に備える。

現在、フリーターを希望する生徒はいない。早期離職の問題も近年改善してきている。

>> School Data

生徒数 / 300人 6学級普通科、3学級普通科文科コース
進路状況（2005年度）/ 大短進学14.0%、専各進学34.0%、就職49.0%、その他3.0%
熊本県天草市久玉町1216-5

TEL 0969-73-3105

URL <http://www.higo.ed.jp/sh/ushibukash/>